

沖縄  
県立

# 博物館だより

1981. 8

No.11

## ＝沖縄県立博物館創立35周年記念＝

特別展**沖縄の美**—日本民藝館蔵—

〈併催・戦前の沖縄写真展〉

## の開催にあたって

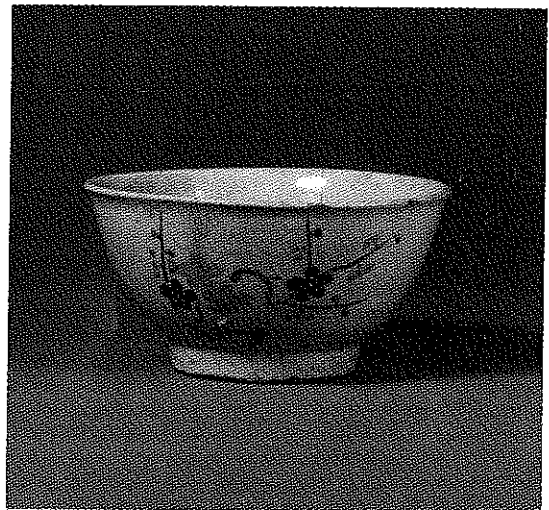
館長 大城 徳次郎

このたび、特別展「沖縄の美—日本民藝館蔵—」  
ならびに「戦前の沖縄写真展—昭和10年代の風物—」が沖縄県・沖縄県教育委員会・当館・日本民藝館・沖縄タイムス社の共催により10月17日から11月15日まで、当博物館において開催されますことは誠に喜びにたえません。

同展は昭和11年、東京駒場に開設された日本民藝館所蔵品中、沖縄関係の美術工芸資料一千余点のなかから漆器・陶器・染物・織物など代表的な作品5百余点を選んで展示するもので、いわば沖縄の優れた民藝品が40余年ぶりに里帰りして開催する画期的な意義深い展覧会であります。

ご存知のように昭和10年代に柳宗悦氏を団長とする沖縄民藝調査団一行が来島し、沖縄の民藝・文化全般にわたる調査研究を行いました。そのかたわら多くの民藝品を収集して帰りました。そして同資料は今日、世界的にもその名を広く知られている日本民藝館の主要な収蔵品になっていると聞き及んでいます。

沖縄は去る太平洋戦争で地上の文化遺産をことごとく失いました。そこで、琉球王国時代の優れた美術工芸品を今日まで大切に保存してきた日本民藝館の資料はたいへん貴重なものです。



あかえうめたけもんわん  
赤絵梅竹文碗

同展は明日への沖縄伝統工芸の創造と発展に大きく寄与すると共に、一般県民や児童生徒たちに沖縄のすぐれた美術工芸品を鑑賞させることによって誇りと勇気を与え、かつまた伝統工芸に対する再認識と関心を深める絶好の機会になるものと思います。また、戦前の沖縄写真展も、40余年前民藝調査団員として参加された写真家の坂本万七氏の作品を展示します。古き良き時代の沖縄の風物写真はきっと県民の興味と関心を呼び起すことでしょう。

ぜひ、この機会に多くの人々をご覧くださいませう願ってやみません。

特別展

沖縄県立博物館創

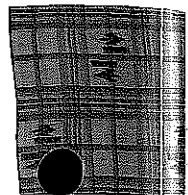
# 沖縄の美 — 日本民藝館

民芸の里帰り 琉球王朝時代の美 初公開

日本民藝館収集品1,000余点から漆器・陶器・染物・織物など500余点を選定



びん がた ふ ろ しき  
紅 型 風 呂 敷



しやうしじょうもんいりかんじ  
朱漆定紋入冠帽子入

## 沖縄の富

柳 宗 悦

「—— 沖縄本島は、南北三十里に及び、<sup>くにかみ</sup> <sup>なかがみ</sup> 國頭、中頭、<sup>しまじり</sup> 島尻と三郡に分れますが、ほぼ中央を境に上下全く異なる地質から成るのです。山は北に多く南へと下ってゆきます。なだらかな丘陵が起伏して、水際近くに水田を控へます。丘と海との風光は繪のやうに美しいのです。それに那覇の港から遠くない首里の都は王城のあった所で、歴史は古く人文の跡が豊かに残されてゐるのです。特に尚王統の時代になって、建築や彫刻や文學や音楽や舞踊や工藝や、見るべき固有の文化が種々榮えました。兎も角大洋に浮ぶ一小嶋嶼で、一千年

の文化史を有つものは世界にも例がないであります。

沖縄は地理的には寧ろ大和の本土よりも、支那の福州に近いので、さぞ支那の影響が大きいだろうと想像されるかも知れませんが、事實は逆で、その言葉も風俗も建築も殆ど凡てが大和の風を止めてゐるのです。それ所ではなく、日本の何處へ旅するとも、沖縄に於てほど古い日本をよく保存してゐる地方を見出すことは出来ません。粗忽にも沖縄を臺灣の蕃地の續きの如く思つてはなりません。——」

—昭和14年中夏—

『沖縄の人文』（新装柳宗悦選集第5巻）

「沖縄の富」序より

創立35周年記念

官蔵

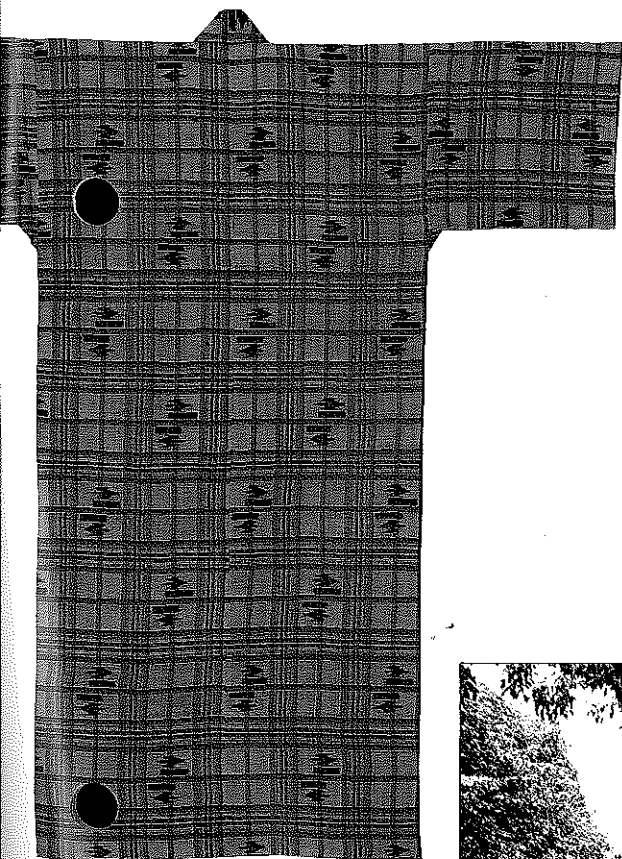
開!!

定し展示公開する。

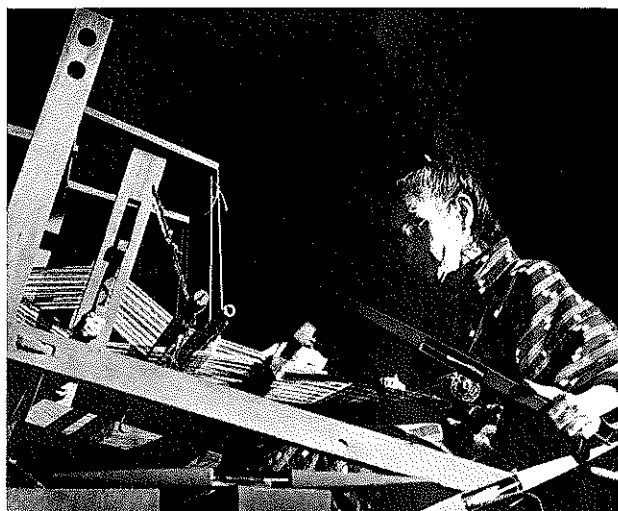
# 併催：戦前の沖縄写真展

—昭和10年代の風物—

★昭和10年代の古き良き沖縄の姿  
今、ここに甦<sup>よみが</sup>える!!



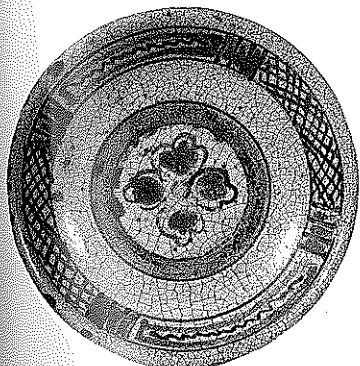
らよま きいろ じあかいちこうし かすりきもの  
苧麻黄色地赤色格子に絣着物



はた お織り (首里)



は た ん 山 (首里)



あか え はなびしもんちゅうざ  
赤絵花菱文中皿

## ◎主なる出品物

### 〈漆器〉

- ・黒漆朱定紋入食籠
- ・朱漆丸膳
- ・朱漆酒注
- ・朱漆定紋入冠帽子入

### 〈陶器〉

- ・赤絵梅竹文碗
- ・緑差からから
- ・赤絵撫子文土瓶
- ・流釉抱瓶
- ・緑釉角座盃台
- ・白打双耳花生

### 〈染物〉

- ・紅型芝居幕
- ・紅型風呂敷
- ・紅型雲型に鶴亀文着物
- ・紅型亭に松梅牡丹文着物
- ・藍型菖蒲に流水文着物
- ・紅型水辺に飛雁文着物

### 〈織物〉

- ・苧麻黄色地赤色格子に緋着物
- ・苧麻紺地あやなか緋着物
- ・木綿紺地総緋着物
- ・芭蕉・木綿・紺地花織手さじ
- ・木綿紺地紺に花織着物

### ●戦前の写真

- ・木白作り・瓦作り
- ・壺屋の陶器作り
- ・酒屋の泡盛仕込み風景
- ・苧剥ぎ(糸芭蕉)
- ・機織り(地機)
- ・紅型の筒描き
- ・那覇の布市場
- ・魚売り糸満女
- ・与那原の綱引き

### ◎特別講演会

10月18日(日)  
午後2時30分～5時

#### ◎これからの工芸デザイン

日本民藝館館長 柳宗理氏

#### ◎民芸の思想—展示品にふれて—

武蔵野美術大学教授 水尾比呂志氏

### ●問合せ先

#### 沖縄県立博物館

〒903 那覇市首里大中町1の1  
TEL 0988-84-2243・86-4353

#### 沖縄タイムス社

〒900 那覇市久茂地2の2の2  
文化事業局 0988-67-3645

(お願い) 駐車場が狭いので会期中、自家用車でのご来館は遠慮  
願います。



日本民藝館全景

## 財団法人 日本民藝館

### 沿革と概要

日本民藝館は、柳宗悦を中心とする、民衆的工芸の美の認識の普及と新しい生活工芸の振興を目指す民藝運動の本拠として、昭和4年に企画され、大原孫三郎氏をはじめとする有志の寄金によって昭和11年10月に設立された。

所在は、東京都目黒区駒場4丁目3番33号、(電話 03・467・4527)。柳宗悦が初代館長、歿後浜田庄司が二代を、現在は柳宗理が三代を継いでいる。

当館が蒐集保存している日本及び海外諸国の新古民衆工芸品は、陶・磁・染・織・木・漆・金・石・紙・絵・彫・拓など各部門にわたり約1万余点を数える。それらは、柳宗悦及び同志たちによって、健やかな生命を持つ工芸品こそ工芸の美の本流であるとの確信のもとに、厳選して蒐集されたすぐれた文化財として、その美的価値と資料的価値をひろく認められつゝある。

当館は、これらを常時展示し、また特別展・講演会・出版活動その他による独自の啓蒙研究活動を行っている。

今回の「沖縄の美」展に出品した沖縄の工芸品も、当館の主要な蔵品の一分野である。

### 沖縄県立博物館だより No.11

発行年月日 昭和56年8月15日  
編集・発行 沖縄県立博物館  
住 所 〒903 那覇市首里大中町1の1  
TEL 0988-86-4353  
84-2243